

令和元年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

- ・「学力向上アクションプラン」を各教科において作成して全校体制で学力向上に取り組んだ。放課後に基礎学力不足生徒に対する学力補充（再テストや補充学習）、朝のベーシックタイムを継続し、学習コンテスト（漢字コンテスト）（計算コンテスト）（スペリングコンテスト）を実施するなどして、生徒の学習量の増加を図り、学校全体の学力底上げ策を充実させた。区学力調査の結果は概ね良好に推移している。
- ・「家庭学習ノート」も定着しつつあり、全校体制で家庭学習の習慣づくりを進めている。
- ・英語、数学の少人数指導を行うことで、授業における個に応じた指導を徹底し、「分かりやすい授業」「基礎学力の定着」「生徒が主体的に考える授業」の実現に向けた授業改善を精力的に進めている。
- ・教科指導専門員（国語）（数学）（英語）を招いて、「足立スタンダードなどに基づき、生徒の学びを主体にした授業づくり」や全体・個人指導を充実させ、教員の研究授業や授業力向上のための教科研修会の充実を図ることで、教員は教育力の向上に熱心に取り組んできた。
- ・学習指導（学び）の継続を中心とした高野小学校、江北小学校、扇小学校との連携事業は、年8回開催され、相互の学習指導に活かされ授業力の向上にもつながった。
- ・いじめ防止対策委員会を毎週開き、SCやSSWを交えた情報交換を計画的に行い、いじめの予防・早期発見に努め、観察や聞き取り、指導を確実に行った。
- ・特別支援委員会を毎週開き、個々の生徒について柔軟に対応できるように、SCやSSWとも役割分担し、関係諸機関（こども支援センターげんきや福祉事務所など）と連携をとりながら支援を行った。
- ・今年度から開設されたコミュニケーションルームでは着実に支援を行っている。すぐに効果が現れるものではないので地道に指導を行っていく。
- ・「ビューティフルウィンドウズ運動」が行われ、学校の環境が美しく華やかになった。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- ・基礎学力の定着については、区学力調査の結果が良好なことが分かる。また、江北桜中が様々な学習機会の場を工夫して設定していることは、結果的には生徒の学習量の増加を図り、基礎学力の定着につながったと考える。教師の授業力向上や放課後に個別指導などを積極的に行っていただき学力が向上したことは先生方に感謝したい。教員には「分かる授業」「生徒が主体的に考える授業」を展開できるよう今後も授業力の向上に励んでいただきたい。
- ・「ふれあい挨拶運動」や「ビューティフルウィンドウズ運動」では、保護者の方や協議会委員が多数参加しており意識の高さを感じた。今年度も生徒の服装の乱れもなく、日頃の指導がしっかりされているとともに安心して学校生活を送っているが、ポケットに手を入れたまま挨拶するなど気になる点もある。学校と地域が連携して指導していく必要性を感じた。
- ・生徒のボランティア活動は、地域行事に欠かせない存在になっている。新校舎になって学校施設の有効利用もさせていただきたい。

3 その他

- ・学校内外で大きな問題行動がなく、学校全体が落ち着いた中で教育活動が進められているということで、安心した。教室に入れない生徒等の基礎学力の定着補助のための「授業内別室登校」を行っているということなので、学習支援ボランティアや登校サポーター等今後も地域が、さらに、不登校生徒が通いやすい工夫として教室環境の整備などを推進し支援していきたい。地域は、生徒がたくましく生きるための基礎学力の定着や、健全育成のために一致協力して、今後も援助を惜しまない。